



# 何かを始めるのに、遅すぎることはない。



2023年も残り1か月となりました。

「終わり良ければすべて良し」という言葉がありますが、12月は1年を締めくくり、新しい年につなぐ大切な1か月です。今やっておかなければならないこと、やり残していることはありませんか。

さっちゃん(佐藤幸子さん、当時67歳)の心残り<sup>こころのこ</sup>は、小学5年の時に父を亡くし、高校進学を断念したことでした。「人生でやり残したことはないんな？」という娘の言葉をきっかけに「私、高校に行くわ！」と決心し、孫と一緒に受験勉強をして高校入試にチャレンジしたそうです。

合格発表の日、掲示<sup>けいじばん</sup>板に自分の番号を見つけた時は、信じられない気持ちとこれから大丈夫なのかという不安が一気に押し寄せてきたそうです。

念願<sup>ねんがん</sup>の高校生活は新鮮<sup>しんせん</sup>な体験の連続でしたが、毎日の予習復習やテスト勉強は苦しいものです。一番苦労した英語は、記憶力の衰<sup>おとろ</sup>えを何度も書いて覚えることでカバーし、暗記のためのノートが何十冊にもなったそうです。卒業までに10以上の資格を取る目標を自分に課しましたが、楽な方に流されそうになる時もありました。さっちゃんのパワー<sup>ぱわー</sup>の原動力は、いったい何でしょうか。

「その年で勉強やしてどうするの？」という人もいます。

けれど、別々に学んだことが急につながる瞬間が必ずあり、「ああ、そうだったのか。」と目の前が明るくなります。この瞬間が楽しくてうれしくて、私は勉強をしているのです。そして、「やっぱり頑張ろう！」という新たなパワー<sup>わ</sup>が湧いてくるのです。

高松商業高校定時制課程4年 佐藤幸子『70歳の高校生』より  
(第59回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会の原稿)

高校卒業後も、彼女の夢は終わりません。大学生になって若い人たちと語り合う自分、外国人と英語でおしゃべりしている自分、もっとレベルの高い資格試験に挑戦する自分……。将来の“なりたい自分”を想像し、ワクワクしている彼女がそこにいます。この“ワクワク感”こそが、彼女の原動力なのかもしれません。

4年間の高校生活を振り返り、彼女はこう語っています。

何かを始めるのに、遅すぎることはない。

70歳の高校生「さっちゃん」が言うのですから間違いありません。

(前掲書より)

一度きりの人生。やりたいこと始めよう！ やればできる！ なんとかなる！  
そう私たちに教えてくれるようです。

★佐藤幸子『70歳の高校生』の全文は、  
香川県立高松商業高等学校定時制 HP へ

